

凡事徹底

2023. 2. 20

私が勤務する学校では、生徒指導のスローガンとして「凡事徹底」を掲げてきた。このスローガンにはサブタイトルとして「当たり前のことを心を込めて」とある。今年度は、この凡事徹底を学校のスローガンとして格上げし、「凡事徹底4か条」とした。

松下幸之助氏の名言の一つに、「むずかしいことができて、平凡なことができないということではいけない。むずかしいことより平凡なことのほうが大事である。」というものがある。平凡の中に真理があるということだろう。

松下氏は、政治家になるためには、政治学の勉強ももちろん大事である。しかし、もっと大事な勉強は、毎朝、とにかく早く起きて、身の回りの掃除をしっかりとやることだと言っている。知識や技術の勉強だけが勉強ではない。それらは所詮、人生の道具にしかすぎない。その道具を使う本人自身を人間として立派にする勉強をしなければならない。そのためには、まず掃除だというわけである。

人は、掃除をしっかりとすれば、心が整い、きれいになる。整った、きれいな心で仕事をすれば、仕事がうまくいくのは当然だ。頭に知識や技術を詰め込むことも大切だが、心が整い、美しくなれば、いい仕事ができないはずがないと言う。理屈ではない。しっかりと身を入れて掃除をすれば心までピカピカになる。

「凡事徹底」の生みの親である鍵山秀三郎氏は、「見えない心は磨けないから、見えるものをしっかりと磨けばいい。目に見えるものを磨いていると、見えない心が光る」といい、当たり前を励むことを教えた。

当たり前のことを励む。きっと一つのことを励めば、やがて、すべてが変わるのだろう。何もかもしようと思うと、すべてが中途半端に終わる。当たり前のことを一つだけでいい。徹底して励んでいるうちに、それができるようになると、他のことも自然とできるようになるのだと思う。それは、一つを励むことによって、心が変わっていくからである。心が変われば、すべてが変わる。

私の学校では、生徒にも「凡事徹底」が浸透し、定着している。当たり前のことを当たり前でできることを大切にすることだが、そこに心を込めようというところがポイントである。掃除など誰でもできる凡事を、誰にもできないレベルで極めるのが「凡事徹底」である。大きな結果は、凡事の積み重ねの上にある。私の学校は、次年度も「凡事徹底」を土台として、さらに次のステージに向かおうと思う。